

どんびま

2008年3月17日発行
発行者 椈の湖農業小学校

ふるさと

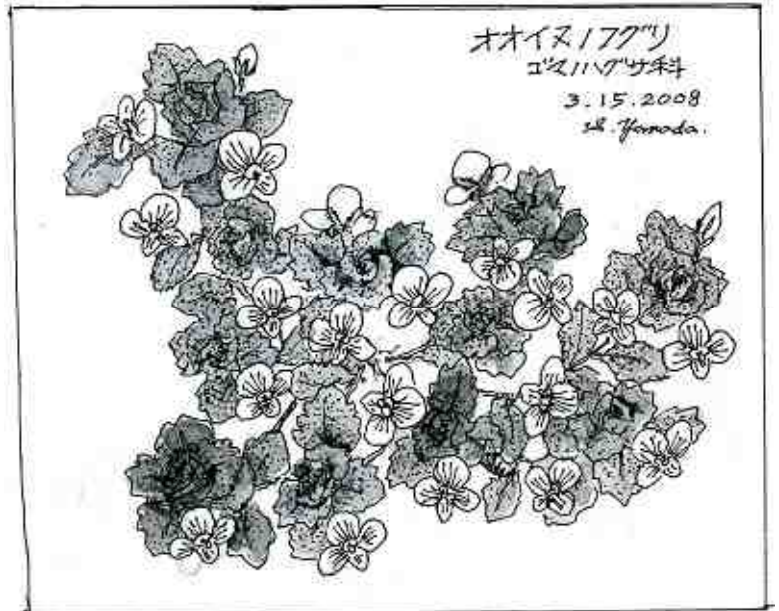
ある本に、『日本は、明治元年に71314の村、自然村があり、それらの集まりが日本だった』とあった。それまでの村の民は、村で一生を終えることに幸福を感じていたことだろう。

明治以降、村民たちは幸福を見つけるためにふるさとを捨てて町へ都会へと出て行った。その流れを止められない、というより止めないまま、いくつもの村は壊れ、いくつかの村は消えた。

最近、村に生きることに幸福を見つけようとエターンする人たちと知り合いになった。

農業小学校は、私たちにとっては、村の良さを見直すために始めたもの。

おいでの皆さんも、ここにふるさとを見つけてもらえたら、嬉しい。 (草)



オオイヌノフグリ ひょうきん 軽な名前であるが、命名したのはさる高名な植物学者とか。名の意味を知るか知らずか、花は女生徒たちにとっても人気がある。明治初期に欧州から渡来し全国に広がってしまった。

3月授業日のご案内

日程	3月30日(日)	服装	作業のできる服装
受付	9:00 ~ 9:30	持ち物	手袋、タオル、長靴、雨具、
入学式	9:30 ~ 11:00		エプロン、食器(皿、汁用椀、湯のみ)
グループ紹介			箸
学校・農場の説明		昼食	五平餅(グループ活動の中でみんなで作ります)・豚汁など
グループ活動	11:00 ~ 12:00		
昼食	12:00 ~ 13:30		
授業	13:30 ~ 15:00		
じゃがいも植え			
ほうれん草・にんじんの種まき		返信はがき締め切り	3月24日(厳守)
終わりの会	15:00 ~ 15:20		
問い合わせ・緊急連絡	TEL 0573-75-4417 ・ 090-5110-9362 (山内總太郎)		
	TEL 0573-75-2109 (椈の湖自然公園管理棟) 当日のみ		

～ 安保兄の百姓ばなし～

皆さんをお待ちしています

一冊の絵本「農業小学校のうた」に出会って、2年間の準備を経て開校してから15年目迎えました。

振り返ってみると、外で遊ばなくなった我が子に気づいた昭和40年代から、テレビっ子たちを野山で走り回らせる「遊びの学校」を作りたいと思い続けながら20年余たった頃の絵本との出会いでした。絵本の作者今西祐行さんは児童文学者で、神奈川県で日本で最初の農業小学校を開いた人です。

『これだっ!』と感じ、古井実くんと二人で「菅井農業小学校」を訪ねた。山あいのなだらかな傾斜の畑に幟(のぼり)と小さな小屋があるだけ、今西先生と数人のスタッフの学校でした。学校という今までの概念からかけ離れていて、これなら我々にも出来るとわくわくする気持ちに胸膨らまして帰ってきました。

地主さん2人を入れて10人の仲間で荒れた桑園の整地作業に入った。どこからも出ないお金、事務所と便所の建設資金は借金したが、仲間や友人たちの奉仕で運動場、駐車場を含めて2haを整地しました。

開校の年は前年度米作の不作のため深刻な米キキンとなった食料問題、子どもたちのいじめや校内暴力が大問題になった年でもありました。

その後、つめこみ教育・点数だけの学力中心のひずみからか、2002年よりゆとり教育・生きる力を養う教育要綱が提唱されてからは、農小の活動がいつそう注目され評価されました。食料問題でも、我々の活動を言い当てていると思われた「スローフード運動」がおこり、岐阜県では米を中心とした「和食推進運動」なども勧められました。

そして今年、1月30日の中国産冷凍ぎょうざ中毒事件で中国食品を買わない大合唱が始まったが、これは予想されていたことです。今までも中国産野菜に残留農薬が検出されてもいて、我々は輸入食材食品の安全性には疑問を持ってきました。

しかしこの問題の裏をみると、先進国の中で最低の食料自給率と、利益だけしか考えていない商社、お金を出せば何でも買えるという思い上がりなどなどが見えてきます。そうかといって急に国内の生産は増やせないし、輸入に頼らざるを得ない状況です。今、マレーシアやベトナム産の冷凍物が増えているといえます。

「消えたゆとり教育」「急転換に現場も困惑」「10年は何んだったのか?」と新聞に大きな見出しがおどった。学習指導要綱の改定がされるなど、後戻りをしている。

椈の湖農業小学校は15年目を迎えるにあたり、自分の食べ物は自分で作る農業体験や自然の中での活動を通して子どもさんが生きる力をつけてもらえるように、食料の安全や自然の保護などを皆さんと一緒に考えていけるように微力ながら続けていきたいと思いを新たにしています。

今年初めて参加の皆さん、この顔があば兄です。

昨年から続きの皆さん、再会を楽しみにしています。

今年1年 よろしくお願ひします。

